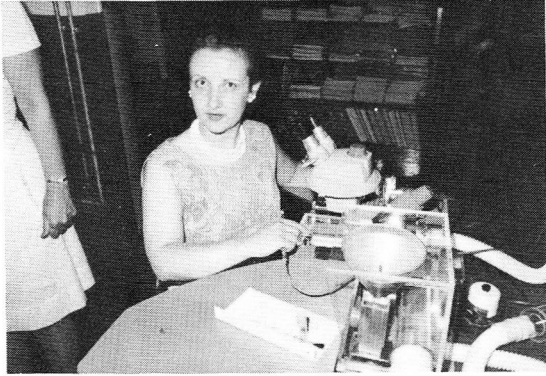


# オレゴン大学種子検査室 (2)

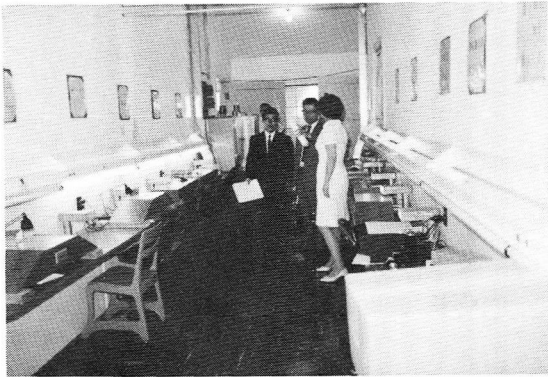


種子の中には肉眼で仕分け出来る大きさのものもあるが微細な種子は解剖顕微鏡を使用して夾雑物をえり分ける。

更に必要に応じてX線を照射して種子の内部構造を調べる場合もある。こうすると外観では判らなくてもシイナとか昆虫の混入を発見することができ、林産種子には効果的である。



発芽試験は通常シャーレの中に濾紙を敷いて行なうほか砂に播く方法もあるが、特に迅速簡便な方法としてテトラゾリウムテストがあり、とうもろこしなど数十種について実用化されている。



イタリアンライグラスとペレニアルライグラスは外形上頗る似ており判別しづらい、このため発芽後1週間位の根に蛍光ランプを反応させ蛍光のあった方がペレ、ないものがイタリアンと判定するフロレッセンステストを行なっている。

